

「入信センター」

主任司祭 晴佐久昌英

復活祭が近づいた。洗礼志願者たちは復活徹夜祭の洗礼式を心待ちにしていることだろう。今年は昨年よりさらに多く、九十名以上の洗礼式になる。同時に洗礼を受ける人数としては高円寺教会始まって以来であり、このままだと数年以内に信徒数も二千人を超えることになる。

いまや、わが高円寺教会はカトリック教会の入信センターのような役割を果たしている。良いも悪いもない、現実には大勢の人たちが救いを求めて集まってくるのに対応しているうちに、そうってしまったのである。

数十名に及ぶ入門係も、各入門講座も、洗礼委員会も、必要に迫られて自然発生的に生まれたチームである。代親とあわせて二百人近い洗礼式を行うために、典礼委員会と典礼奉仕部会は連日打ち合わせをしているし、各地区会も名簿委員会と連携して受け入れの準備を進めている。親と一緒に受洗する子供たちを受け入れるために天使組や小学生会も動くし、今年のように中高生・大学生の受洗者が目立つときは中高生会や青少年委員会も協力する。

洗礼式一週間前には、志願者全員集めて教会委員会主催の教会説明会が開かれるが、ついでにと各活動グループが新人勧誘を行う様子は新入生を迎える大学キャンパス状態である。受洗者のために始めた「信者のためのカトリック講座」も一年たってプログラムが整い、軌道に乗った。広報委員会は、毎年受洗者全員の原稿を集めるために大変な苦勞をするが、その成果はこの「いしずえ」に載って、共同体全員の喜びの共有に寄与している。面倒な事務手続きや受洗者との連絡のために事務担当者と受付チームが果たしている大きな役割はいうまでもない。

教会案内所・売店の「天使の森」のスタッフは、初めて訪れた人を洗礼へと導くプロに成長してきたし、ホームページ委員会の努力のおかげで、インターネットがご縁という受洗者も増えてきた。そうして主任司祭は、今後も内外で「洗礼はあなたを救う」と宣言し続けるだろう。

臆することなく人々をミサへ招き、洗礼を勧めてほしい。「入信センター」を必要としている人が、日本にはあと一億人いる。